

## DISCUSSION

# 経営者や若手、 女性技術者が集まって 建設業について話し合いました



永井建設株式会社  
佐藤 瑞樹さん

青協建設株式会社  
酒向 銀次郎さん

### 仕事を通じて感じる建設業の魅力とは…

**酒向** 高校を卒業して建設業に入りました。現場監督をしています。入社して4年、辛くて辞めたいと思ったこともありました。しかし良いものをつくって社会に貢献したいという思いがあって、続けてきました。

**小栗** 若いときはやはり、いろいろ辛いことがあります。しかし、道路などの構造物は人の目に触れるし後に残る、自分で良かったなと思います。災害などが起こったとき、すぐに動くのは建設業界。先頭に立って力を発揮するのは、我々です。やはり若い力が必要ですね。

**島** ずっと現場を経験してきて、いろいろ苦しいこともありました。発注者との協議がうまくいかなかったり現場で設計変更がうまくいかないことなどなど…。でも、最後に完成検査を受けるとそういう辛いことを忘れてしまう。それがあから続けられるんですよね。地域のみなさんの「ありがとう」という言葉に救われました。若い人たちには、ぜひ経験を積んで続けてほしいですね。

**酒向** 現場で完成したのを見たときの達成感を自分も味わって

きました。これから若い人が入ってくるために、会社のサポートが重要だなと思います。私たちも会社の期待に応えたい。

**佐藤** 社内にまだ後輩はいませんが、今後後輩が入ってきたら、辛いこともあるけれど、徐々に仕事のことが分かってくると楽しくなってくると伝えたい。工事完成時の達成感を味わうためにも、すぐに辞めるのではなくて続けてほしいなと思います。

### 若手や女性をとりまく環境は…

**沼波** 9年間働いてきて、最近は建設業で働く女性を取り上げるテレビ番組など、露出が増えました。監督業だけでなく職人も増えてきましたね。少し前までは男性用トイレしかなかったのに、女性専用トイレができたり変化があります。社内でも産休・育休を取れるようになるなど働く環境が改善されています。まだ女性は少ないですが女性が活躍できる場が広がってきていると感じます。

**鈴木** 女性として現場で困ることはありません。女性専用の事務所があって着替えなどができる現場もあったので助かっています。

**島** 困っていることがあれば、ぜひどんどん女性や若手から意見を

あげてほしいですね。そういった声を受け入れる態勢は整ってきていると思います。

**酒向** 鈴木さんと現場であったときに「あ、女性が頑張ってる」って思いました。現場監督としては、トイレや更衣室を整える必要があるということに気が付くようになりました。

**沼波** 「女性だから、男性だから…」という業界ではありません。できないことでも、人をお願いしたりして、男性と同じ仕事ができるように心がけています。男性だけのイメージから女性でもできるということが世間に認識されていると思います。人数が増えると環境がさらに整うので、少しずつ増えていくとうれしいですね。

**鈴木** 女性と男性では力が違います。でも、できないとあきらめるのではなく人をお願いして手伝ってもらいます。言葉ひとつで変わります。まわりが変わるのもうれしいですが、一番大事なのは自分が変わることにあります。できない原因を自分で見つけて成長していきたいです。こういうとき、先輩やベテランの存在は大きいですね。

**小栗** モノづくりに携わる人は、見て覚える人が多い。私たちもそうでした。でも、若い人にはなかなか伝わらないこともあります。



株式会社友進道路  
鈴木 さえさん

日産工業株式会社  
代表取締役社長  
島 秀太郎さん

TSUCHIYA株式会社  
沼波 貴恵さん

株式会社鳴海組  
取締役工務部長  
小栗 功さん

コミュニケーションの取り方が変わってきているのかもしれませんが。しかし、建設業は自分の身は自分で守る世界。危険予知も自分で覚えなくてははいけません。学校とは違うということを認識してほしいですね。分からないことは、聞いてほしいです。そうしたら、私たちは何でも答えていきます。昔、休憩時間はみんなでお茶を飲んで職人と会話をする時間でした。一人で過ごす若者もありますが、コミュニケーションを積極的に取ってほしいですね。地域の人も交流していると、みなさん安心しますしね。女性がいると近隣の人のやりとりも上手にやってくれるので、これからもっと増えていくといいですね。

**佐藤** 年上の人は何を話しているのか分からず、なかなか話しかけることができません。仕事の話ばかりになりますね。聞きに行くので助かっています。経験を積んだ人は、問題が起きたときにすぐ解決策を立てるところがすごいと思います。いろいろな作業ができてカッコいい。

**沼波** 休憩時間は職人と仲良くなるための時間だと思っています。お客さんと職人とどちらともしっかりコミュニケーションをとって

いると、仕事の相談ができてスムーズに作業が進みます。また、女性が現場にいると安心されるお客さんは多いですね。

**鈴木** 建設現場で働く女性はまだ少ないので、この業界に入ったきっかけなどいろいろと聞いてくださる人もいます。そんな会話の中で仕事の話ができるとうれしいですね。

### 次代を担う若手を見守るベテランの思い

**佐藤** 現場で問題が起きても経験が浅くて解決する能力がないとき、人に頼らなくてはいけないので辛いです。書類は量が多くて正確性が求められるため時間がかかります。でも、先輩や上司が丁寧にいろいろなことを教えてくれるのがうれしいですね。完成検査のときは、達成感を味わえます。

**小栗** 問題解決の力がなくて悩んでいるということでしたが、私もそうでした。今でもそうです。パソコンが導入されたとき何をしていたか分からなかったんです。電子納品が進んで、何をしていたか分からない。若手に頼ることが多いです。お互いにできることをしていけばよいと思います。先輩の技術を盗んで良い技術者に

なってほしいですね。みなさんは伸び盛りですから、いい技術者を目指して頑張ってください。

**島** 自分のはがゆさを感じた時代もありました。でもはがゆいということは、仕事に対して真剣だということ。そういう佐藤さんの話を聞いてうれしく思います。前日の成果がしっかりと見える業界です。完成したときのイメージをもちながら仕事をすると辛いことも乗り越えられるのではないかと思います。最近は、工事書類等、削減できるものは削減しようと声があがっています。また、建設現場にICT（情報通信技術／Information and Communication Technology）を活用した新しい技術が入ってきて、若い人が活躍する時代になります。頑張ってください。

**鈴木** 業界の成長につながるよう自分の成長も大切だと思っています。一つひとつ説明がない状態で仕事を進める業界です。言われたことをまずは100パーセント、120パーセントできるようにになりたい。

**小栗** いま、高齢化が進んでいる建設業。今後若い人が増えていく、夢のある業界になっていくとうれしいですね。